

ジュニア賞

高齢者ドライバーによる事故を防ぐゲーム

犬飼 悠涼 (高校3年生：岐阜県)

自動ブレーキシステムやドライブアシスト機能など自動車の性能は年々運転しやすいように研究されています。しかし、65歳以上のドライバーが起こした事故割合は平成19年の13.1%に対し平成28年では22.3%まで増加したデータがあります。(警視庁「防ごう！高齢者の交通事故」より抜粋) 何故、高齢者による事故は増えてしまったのでしょうか？私は高齢者ドライバーの無意味な自信が関係していると考えます。アンケート調査によると64歳以下のドライバーで”自信がある”と回答した方が38.0%なのに対し、65歳以上のドライバーは51.3%の方が”自信がある”と回答しています。さらに80歳以上の方は72.0%も”自信がある”と回答しています。(MS&AD基礎研究所株式会社「高齢者事故と防止対策」より抜粋) そこで一年に一回しかない教習所のテストを、身近に簡単にできるゲームにすれば高齢者ドライバーによる事故が減少するのではないのでしょうか。また、ゲームにすることで家族の人に運転しても大丈夫か関心を持ってもらえると考えます。ゲーム概要は至ってシンプルです。認知症チェック、交通規則、VRシステムを用いた視覚外からの車や子供の飛び出し回避、停車車両の回避、駐車など計50問を解いてもらいます。その後、結果に応じて運転することが危険かどうか表示されます。この結果次第で、無意味な自信がなくなったり、免許の返納について家族と話し合える機会が作れるのではないのでしょうか。また、このゲームによって免許返納された65歳以上の方はタクシーとバスの半額証明がゲームに施され、降りる際にゲーム内の証明画面を見せると半額にしてくれるサービスもつけると、車が運転できなくなると交通手段がなくなるという問題も緩和できるのではないのでしょうか。このゲームが話題となれば、公共交通機関の利用が増え、市営バスの路線が今より広い地区まで整備されるなど、高齢者以外に免許を持っていない人も快適な生活が送れると考えます。